

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376100174
法人名	社会福祉法人昭徳会
事業所名	高齢者グループホーム小原安立
訪問調査日	平成19年10月31日
評価確定日	平成19年12月11日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2376100174
法人名	社会福祉法人昭徳会
事業所名	高齢者グループホーム小原安立
所在地	豊田市沢田町座内2番地 (電話) 0565-65-1080
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成19年10月31日(水)

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年4月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 6 人
職員数	5 人 常勤 1人, 非常勤 4人, 常勤換算3.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,800 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	4	要介護2		2	
要介護3	0	要介護4		0	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 85.6歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊田地域医療センター
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から数km山中に入った緑に覆われた自然豊かな環境にある母体法人の総合福祉施設敷地内の2階建特養に隣接した1階に5年目を迎えるグループホームがある。法人の基本理念「幸福」を踏まえ、施設長や管理者、職員共に、入居者の処遇を重視し、小規模な生活で能力を最大限に活用できる「個々にあったサービス提供」を目標に努力している。入居者は軽度認知症なので、食事の支度や掃除、洗濯等は殆んど共同で行ない、一日中家庭的で落ち着いた環境の中で生活を送っている。地域住民とのかかわりは積極的に取り組んでいるが、更に、地域とつながりながら暮らし続ける基盤を築くために、現在、将来構想検討委員会を設立して取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「権利と義務の明示」及び苦情窓口の「職名から氏名」の表示にするなどの課題は、契約書の見直し作業内で取り組んでいる。介護計画の3ヶ月程度の見直し及び身体拘束マニュアルの作成は改善の取り組みがされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長や管理者は自己評価の意義や狙い、活用方法等をしっかりと理解しており、全職員にわかりやすく説明して、一緒に具体的な改善に結びつけ、事業所の質の確保に最大限に活かす取り組みをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 民生児童委員、包括支援センター職員や家族等のメンバーで、9月に第1回会議が行なわれ、事業所の考え方や実態等の説明及びメンバーからの質問や意見を聞く双方向的な会議が実施されている。概ね2ヶ月に一回の開催が必須となっているので、現場や入居者等の課題解決の場として、また、自己評価や外部評価の説明や公表等を行ない、評価を運営推進会議に活かし、相乗効果を狙う場に活用が期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族と事業所の信頼や協力関係を築くため、「うぐいす便り」の広報誌等で、きめ細かい個別報告や情報提供が定期的に行なわれている。また、家族が訪れた機会に介護記録を見せて、出された意見や要望等を職員会議で話し合い、ケアサービスの向上に反映させている。入居者や家族等が外部の者と接触できる場として、市の介護相談員を受け入れている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の老人クラブ発表会や小原歌舞伎等のイベント参加、施設敷地内の夏祭りの地域住民の参加、フラダンス、大鼓等のボランティア訪問や地域高齢者との交流等、開放的なホームを目指し、地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念「幸福」をホームの理念に置きかえている。現在、地域に開かれたホーム独自の理念を模索中で、近々、実現できるように取り組んでいる。	○	法人全体の理念を基盤にしつつ、地域密着型サービスとしての役割を目指した、グループホーム独自の理念や方針、目標を明確にしていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を日々のミーティング等で方針や目標に具体化して、入居者に関わる際に態度や実践に活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人クラブの発表会や小原歌舞伎等のイベント参加や地元の農園を利用するなど、地域の人々との関わりをもつように積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や活かし方を職員にわかりやすく伝えており、管理者や職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。また、施設長や管理者は外部評価の結果を踏まえ、改善や実践につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生児童委員や老人クラブ会長、包括支援センター職員、家族代表等のメンバー構成で、9月に第1回会議を行い、運営やサービス提供の方針等の報告をし、参加メンバーからの質問や意見を聞くなど双方向的な会議となっている。	○	おおむね2ヶ月に1回の開催が必須なので、定期開催に心掛け、認知症の人が地域の中で暮らし続けることの可能性や課題を具体的に話し合う場としての活用が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や介護サービス向上連絡会等に参加して、事業所からの積極的な情報提供と共有に努めている。また、介護相談員を受け入れ、市との連携で、課題解決にむけた協働にも取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の要望と事業所のズレのないよう、面会時等は介護記録を見せて説明しており、広報誌による定期的な近状報告も行なっている。また、日々の心身の状況をきめ細かく記録して、報告を行ない、家族との連携に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに家族とのコミュニケーションを重視し、積極的に聴く努力や場面作りを工夫している。また、運営推進会議に家族が参加し、意見や不満を外部者に表せる機会を作っている。苦情箱も設置し、外部の苦情受付担当窓口も明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が継続的に支えることを重視し、職員の交代は極力控える体制となっている。また、新職員が馴染むまで、ベテランの職員と協働し、理解や受け入れられるまで最善の努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や施設長は職員の質の確保や向上に向けた育成が不可欠と理解しており、積極的に外部研修等に参加させている。また、全職員が共有できるよう、職員会議で発表したり、運営推進会議で外部者にも説明する機会をつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加した他法人の同業者を事業所に招待して、日々のサービスや職員育成に役立つ情報交換等を行ない、ネットワークづくりに取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族が必要としている支援を見極めるため、スタッフが自宅に出向いて、事前面接で本人等の生活状態を把握している。また、本人が職員やサービスの場に心理的不安を抱えないよう、ホームでの見学相談等を繰り返す等の段階的な支援を行なっている。		
、					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりの生活歴をよく理解しており、漬物付け達人の入居者から、職員が指導を受ける場面もあり、入居者の得意分野で力を発揮している。また、昼食準備等で入居者同士が協力して行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが、日々の関わりの中で、入居者の行動や表情等から汲み取り、それとなく本人の願いや意向を確認するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との日々の関わりの中で得られた意見や希望等を最大限に反映させている。また、毎日のミーティング等で伝えられた職員の気づき等を全体会議で確認して、家族と共に、本人本位の介護計画を作成している。	○	介護計画書の家族の同意欄に、家族のサイン以外に捺印することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定期間に応じた見直しと本人の状態や家族の希望の変化に応じて柔軟に見直しを行っているのが記録として具体的に記されている。	○	3ヶ月に1回程度の定期的な見直しが行なわれているが、今後、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向や状況を確認する取り組みの検討が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、医療処置を受けながらの生活の継続及び本人の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の馴染みのかかりつけ医の継続受診を支援している。また、緊急時は協力医療機関への受診が受けられることも、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方や事業所の対応は利用契約時に本人や家族等に説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人にとっての誇りやプライバシーが見極められ、その人にあわせた言葉かけや対応がされている。個人に関する記録やメモは、人前に放置しない等、全職員が個人情報保護法への気配りが徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースを大切にし、その場の状況に応じた、「その日」したいこと、食べたいもの等を把握するなど、入居者が主人公となる個別性の支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とその日のメニューを考え、調理や配膳や片付け等の場面で入居者の力や希望を最大限に引き出し、満足感につなげている。また、入居者と職員は同じ食卓を囲んで、調理の出来ばえ等を話題にして、楽しい雰囲気ですべて食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として、一日おきとなっている。入浴時間は一人ひとりの意向を第一にくつろいだ気分の入浴を支援している。また、入浴を拒む人には、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等で対処している。	○	希望があれば、毎日の入浴や朝風呂、就寝前や夜間入浴等の自由な時間帯の入浴ができるような取り組みの検討が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、漬物漬け、干し柿作りや園芸等、多彩な入居者の経験や知恵を発揮する場面作りに努めている。また、外出や地域の行事参加等の楽しみごと、入居者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の入居者の希望にそって、近くの吉田の名水への水汲みや買い物、散歩や畑仕事等で日常的に戸外に出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は施錠の弊害をよく理解しており、日中は玄関等の鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、外に出られる方には職員が一緒につきそい、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と合同で、消防署や災害対策担当者の協力を経て、定期的に避難、通報訓練や消火器の取り扱い方等を職員と入居者が一緒に行なっている。消火器の点検や避難通路の確保等は日々心掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの栄養バランスや水分量等は併設施設の栄養士や看護師と協働で支援している。また、日々の食事及び水分の摂取量は個別記録帳に記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建屋の中心部が吹き抜け構造で、食堂の大きな窓からの自然光が入り、室内全体が明るく、各室の空調や照明等も適切に管理されている。廊下には入居者の作品や行事の写真が飾られ、要所要所には観葉植物や季節の花が置かれており、居心地よく過ごせる環境となっている。トイレや廊下等の要所に手摺りが取り付けられ、異臭や不快な音はない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた整理タンスやテレビ、日用品や仏壇等が持ち込まれおり、プライベート空間として居心地の良い環境づくりをしている。		

※  は、重点項目。